

縦にごろごろする待合の間



日本は、床を使う文化を持った国です。床を使う日本文化から、家具を使う西洋文化に変わった現代でも、未だに室内は土足禁止のまま、床を清潔に保つという意識は変わっていません。にもかかわらず、床の上に家具を配置し、用途を決め、床はほとんど使われていないのが現状です。

「畳 タタミ」という素材に上るとき、人は自ずと靴を脱ぎ、人は床に誘われ、人は地面に身を委ねます。この計画では、待合の空間の床全体に「畳タタミ」という素材を使うことで、座る・もたれる・ごろごろする・歩く・・・といった、床としての本来の多様な使われ方を呼び戻し、地面の厚さと重さを介して「自らの重さ」を感じることで、「待つ」という退屈な時間をリラックス出来る空間を提案します。



DIAGRAM

待合室での待機時間というものは、とても退屈で、緊張する。



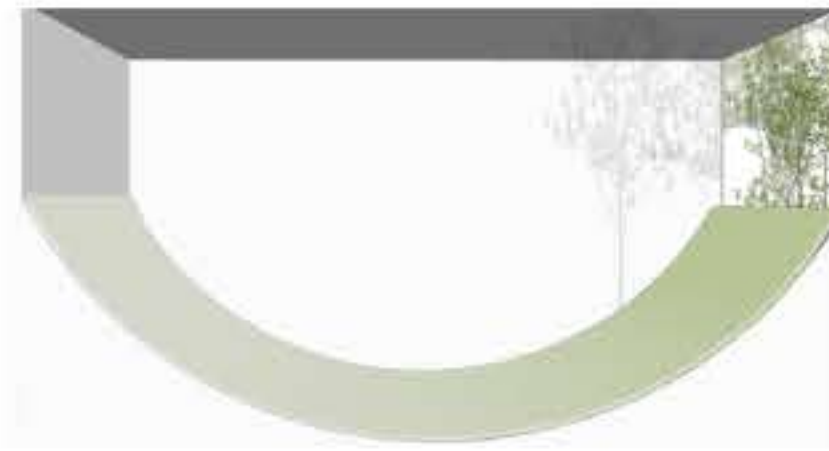
空間の広さは大きくても、その大きな空間は、家具の配置によって、無意識のうちに使える空間と使えない空間に分類されてしまう。

広い床という空間は、ただそこにあるだけで、だれにも使われず、通路の役割しか果たしていない。



待合室の椅子が埋まれば、そこには広い床が広がっているというのに、椅子があることで床に座るといふ行為が懸念され、立って待っている人もいる。

家具を配置せず、壁を床に近づけ、床を壁に近づける。



壁との連続に床があり、床との連続に壁がある。椅子を配置しない床、そこは座ることも、歩くことも、もたれることもできる空間となる。

壁と床との境界を無くし、床を更に細かく、様々な高さに分解する。



分解した空間に居る人の行動によって、床は時に壁となり椅子となり、ごろごろ出来る空間になり、台になる。

Section

様々な種類の「もたれる」床



もたれる = 地面の重力を感じることで、緩やかに隆起した地面の場所により、感じる重さ変化します。



居心地の良い場所を探し、緩やかな傾斜にもたれる・寝ころぶ・座る



緩やかなカーブは「そこに居る人の行動」によって、時に壁になり、時にフラットな通路になり、時に座るための椅子になり、木や肘を置く台になります。



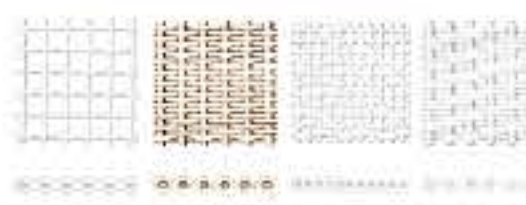
素材 - カラー



■ 床仕上げ材
「地面に座ること、歩くこと、もたれること」を、私たちに許可する「畳」という素材
あわいグリーン

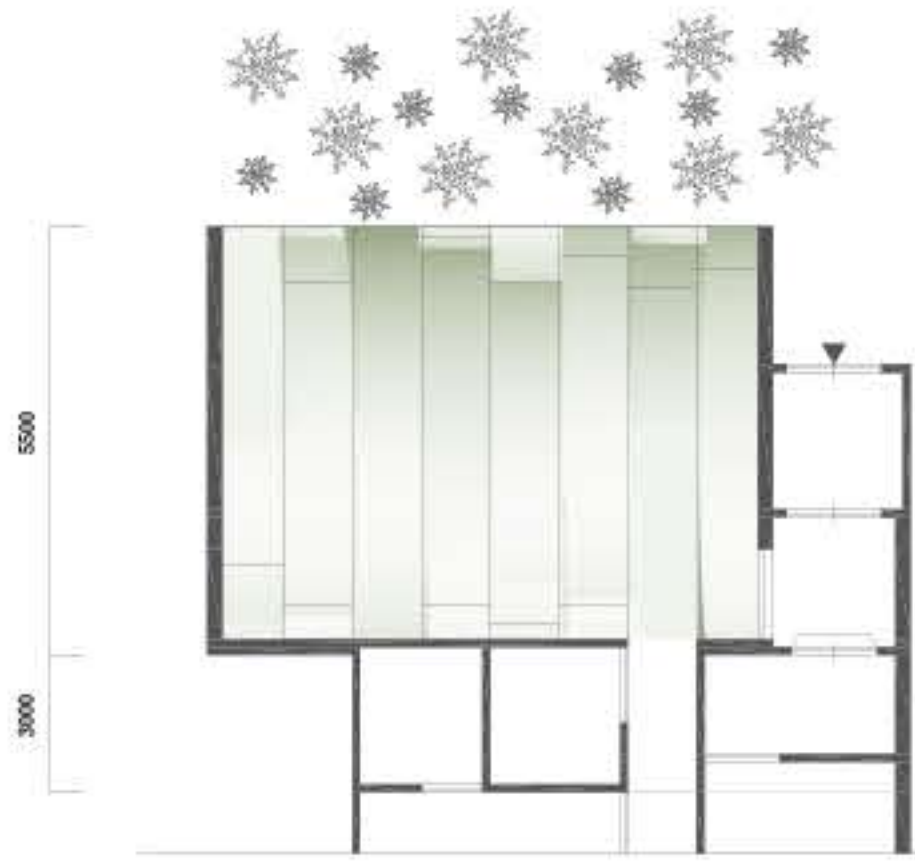


■ 床の断面素材
「分厚さ・重さ・安心感」を感じさせてくれる「石材」という素材
石材色(グレー)

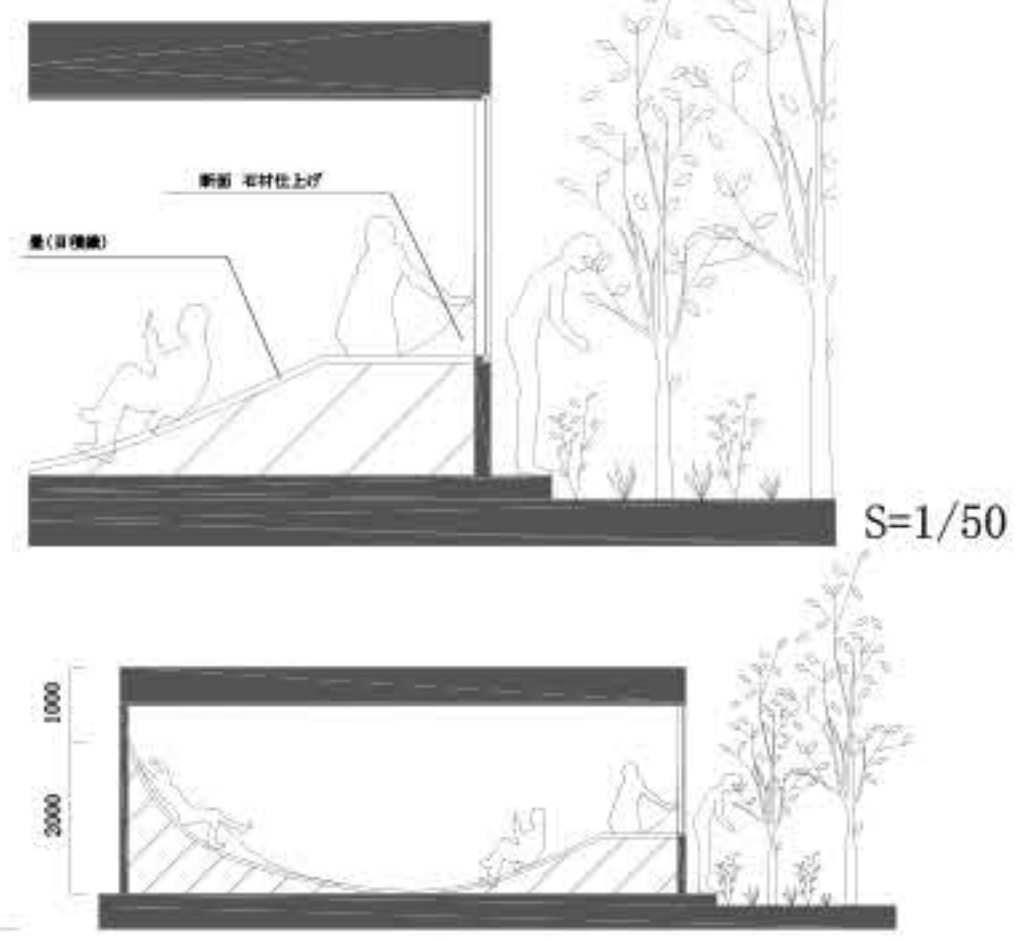


たて糸が1本しか入っていないため目が詰まっており、曲げ加工等に適す「目積織り」という種類の畳を使用します。

Plan



Section



S=1/100